

期 間 26年 7月9日 [水] ～8月6日 [水] (全5回)

応募締切 6月25日 [水]

実施場所 九州国際大学地域連携センター(サテライト・キャンパス)

〒806-0021 八幡西区黒崎3-15-3 コムシティ2階 (33ページ地図参照)

申込問合せ先 九州国際大学地域連携センター(担当:今井・片山)

〒806-0021 八幡西区黒崎3-15-3 コムシティ2階 TEL: 631-2203 FAX: 631-2204

時 間 18:30～20:30

定 員 30名

受講料 4,000円

コース概要

実施機関: 九州国際大学地域連携センター

「ダーウィンの進化論」を何となく知ってはいるが、『種の起源』は読んだことがないというひとは少なくありません。読まれない理由は、原著や翻訳には難解な言葉づかいや理論があること、そして、出版された国や時代の背景をくみ取った読みかたが難しいことなどがあります。そのため、『種の起源』は古臭いものと誤解され読むことを敬遠されてきました。

『種の起源』は、最初の第1章～第4書でその「基本原理」を説明する構成になっており、平成25年度開講「『種の起源』を読むI」で、それらについて理解をしました。

この講座では、第6章～第13章を構成する「異論に対する証拠をあげての具体的検証」について学びます。ダーウィンが考えた進化論に対して、予想される異論について検証している内容を理解することがねらいです。まず第1章～第4章の振り返りをおこない、第6章～第13章の重要ポイントを学びます。「『種の起源』を読むI」を受講していない方も参加いただけます。

なお、講座進行の都合により、講座の順番を変更することがあります。

月 日	テーマ・内容	担当講師
7月9日 (水)	「進化論」への異論とそれに対する反駁について(1) 『種の起源』第1章～第4章の振り返りと、第6章「学説の難点」に関する内容を学びます。ダーウィンは「進化論」を公表する前に、周到な自説の検証を繰り返していました。今回は、この内容について学んで行くことにします。	
7月16日 (水)	「進化論」への異論とそれに対する反駁について(2) 『種の起源』第7章「本能」に関する内容を学びます。働きアリは、直接子孫を残すことがなく、ひたすら働き死にゆく運命なのはどのような理由なのかダーウィンは注目しました。今回は、本能に関する内容を学んで行くことにします。	
7月23日 (水)	「進化論」への異論とそれに対する反駁について(3) 『種の起源』第8章「雑種」～第9章「地質的記録の不完全について」に関する内容を学びます。ダーウィンは、中間段階の化石が見つからないことに疑問を感じていました。学説の正しさを証明する上で、彼はどのような考えに至ったのでしょうか。今回は、地質学に関する内容に時間をかけます。	九州国際大学 准教授 松本 幸一
7月30日 (水)	「進化論」への異論とそれに対する反駁について(4) 『種の起源』第10章「生物の地質学的遷移(連続)について」～第11章「地理的分布」に関する内容を学びます。ダーウィンは、氷河期の地理的条件と生物の移動に注目をしました。今回も、地質学に関する内容を学んで行くことにします。	
8月6日 (水)	「進化論」への異論とそれに対する反駁について(5) 『種の起源』第12章「続・地理的分布」～第13章「生物の相互類縁、形態学、発生学、痕跡器官」に関する内容を学びます。ダーウィンは、胚の機能分化について著書の中で触れています。この考え方は、例えば現代のiPS細胞のアイデアにつながるかも知れません。今回は、生き物の器官に注目したダーウィンの発想にせまります。	